

謹んで新春のおよろこびを申し上げます

年頭にあたり、皆さまのご健康とご多幸をお祈りしますと共に、
本年が皆さまにとってさらなる発展の年となりますようご祈念申し
上げます。

年末に届いた「町村週報」の表紙を飾った記事をご紹介します。
その記事には、第55代内閣総理大臣・石橋湛山氏がまだ政治家に
なる前に、東洋経済新報(大正14年)の「社説」で語った彼の地方自
治に関する見識が記されています。(以下原文)

「私の見る所によれば、地方自治体にとって肝要なる点は、その一
体を成す地域の比較的小なるにある。地域小にして、住民がその政
治の善悪に利害を感ずること緊密に、従ってまたそこに住まってい
る者ならば、誰でも直ちにその政治の可否を判断することが出来、
同時にこれに関与し得る機会が多いから、地方自治体の政治は、真
に住民自身が、自身のために、自身で行う政治たるを得る。【…】」

まさに納得のいく言葉です。民主主義の原点である主権在民の精
神を直言し、最も身近な政治としての自治体が持つ役割の重要性を
語ると共に、政（まつりごと）を司る者の負う責任の重さを、我々
に考えさせるものです。

地域小なる自治体の長としてこれらを真摯に受けとめ、地域小なる自治体の存在意義を今後も高める努力を重ねたいと思います。

本年も、どうぞよろしく願いいたします。